

Technical NOTE

VIA独自のGPU Elite2000Sを搭載したプラットフォーム「ARTiGO A928」 エントリーAIコンピューティングシステム



ARTiGO A928

<http://go.aps-web.jp/16-via>

QRコードアプリで最新情報をご覧ください。

独自のGPU Elite2000Sを搭載 VIA自社製Arm SoC ZX-2800M

ZX-2800MはVIA自社製SoC ZX-2000Mの後継製品となります。CPUコアは同じくArm® Cortex®-A17 quad-core 1.4GHzを採用していますが、S3 Graphicsで培ったグラフィックス技術を惜みなく生かし開発した独自のGPUコアをElite1000からElite2000Sに一新させました。従来のElite1000で実現できなかった4K@60fpsの動画再生もサポートできるようになり、デュアルディスプレイの再生も完全に独立したフレームバッファで処理するため、各ディスプレイに最大1080P@60fps、異なる解像度の表示や動画再生が可能となりました。またエンコードとデコードの処理能力も大幅に強化しました。最大H.264 2x1080P@30fpsのエンコード能力及び8x1080P@30fpsデコード能力まで処理することが可能となりました。

3種類AI (人工知能) ライブラリー支援

ZX-2800MはVIA従来のSoCよりもAI機能を

さらに強化した製品となります。ZX-2800Mなら、現在AIライブラリーとして多く使われるCaffe、Tensorflow、及びDarknetをサポートしています。機械学習を用いて計算させる際、CPUよりもGPUを使った方が遥かに効率よく約10倍の速さで処理することが可能です。VIA自社開発のGPUコアのため、GPUとライブラリー間の最適化を図ることができ、ユーザーに最大なユーザーエクスペリエンスを体験していただくことができます。

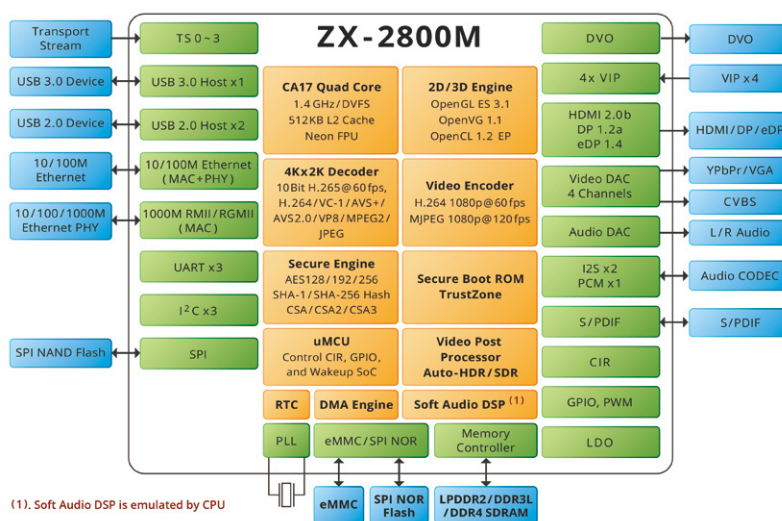
エントリーAIコンピューティングARTiGO A928

「ARTiGO A928」はZX-2800Mを搭載した次世代コンパクトファンレスシステムです。超高画質の4K60フレーム/sの動画再生はもちろん、GPUの処理速度が115GFLOPSを有するため、一般的にAI計算処理に必要な100GFLOPSを上回り、エントリーAIコンピューティングシステムとして使用することもできます。3種類のAIライブラリー (Caffe、Tensorflow、Darknet) をGPUによって効率よく処理することが可能ですので、サーバーに接続することなく、エントリーエッジAIコンピューティングシステムとして最適です。

ARTiGO A928 製品仕様 (暫定仕様*)

- 搭載SoC : Cortex-A17 quad-core 1.4GHz
- メモリ : 2GB DDR3 SDRAM オンボード
- ストレージ : eMMC 8GB オンボード
- I/O : HDMI x1、USB3.0 x1、USB 2.0 x1、COM (Tx/Rx) x1、DIO port (8 GPIO) x1、Ethernet x1、Mic-in x1、Line-out x1、miniPCIe slot x1、Micro SD card slot x1
- 対応OS : Android 7.1 / Embedded Linux 3.18
- 電源供給 : DC-in 12V
- 稼働温度 : 0~50°C
- 稼働湿度 : 0~90%@40°C (結露なきこと)
- 外形寸法 : 150 x 30 x 124mm (WxHxD)
- オプション品 :
 - ・ EMIO-5531 USB Wi-Fi+BTモジュール
 - Wi-Fi: 802.11 b/g/n
 - BT: Bluetooth 4.0+EDR
 - ・ EMIO-2571-00A0 4G通信モジュール
 - ドコモ+アンテナキット
 - ・ EMIO-2571-01A0 4G通信モジュール
 - ソフトバンク+アンテナキット

*1 暫定仕様のため、正式仕様と異なることがあります。



ARTiGO A928^{※2} (左) / ZX-2800M Chip diagram (右)
 ※2 ARTiGO A928は開発中のため画像はARTiGO A630を使用しています。